



平成 20 年 10 月 31 日

各 位

会 社 名 日本精密株式会社
(JASDAQ ・ コード : 7771)
代表者名 代表取締役社長 岡林 博
問合せ先 経理部長 田崎 政己
(TEL (048) 225-5311)

特別損失の発生のお知らせと平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間(連結・個別)
及び通期(連結・個別) の業績予想の修正に関するお知らせ

この度、当社において下記のとおり特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせするとともに、平成 21 年度 3 月期第 2 四半期累計期間(平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 9 月 30 日) 及び通期(平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 21 年 3 月 31 日) の業績予想について、平成 20 年 5 月 23 日付当社「平成 20 年 3 月期 決算短信」にて公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1 . 特別損失の発生及びその内容

(1) 貸倒引当金繰入

子会社村井の業績(平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間 当期純損失 51 百万円の発生と 162 百万円の債務超過) から判断し、同社債権に対して貸倒引当金の繰入を行うことと致しました。(個別 162 百万円)

(2) 投資損失引当金繰入

子会社村井の業績(平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間 当期純損失 51 百万円の発生と 162 百万円の債務超過) から判断し、子会社株式に対し投資損失引当金繰入を行うことと致しました。(個別 100 百万円)

(3) 減損損失

当社グループにおいて、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき子会社村井に対するのれんの減損処理を行い減損損失を計上することと致しました。(連結 83 百万円)

2 . 平成 21 年 3 月期連結業績予想の修正等

(1) 第 2 四半期累計期間(平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 9 月 30 日)

(単位 : 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	2 , 5 1 4	4 3	2 1	1 7
今回修正 (B)	2 , 6 2 6	5 6	6 8	6
増減額 (B - A)	1 1 2	1 2	4 7	2 4
増減率 (%)	4 . 5	2 9 . 1	2 2 4 . 8	-
(ご参考) 前期第 2 四半期実績	1 , 5 3 5	1 0 6	1 0 8	2 1 2

(修正理由)

売上高は、時計バンド事業では、欧州大手高級時計メーカーへの9百万円の減少と国内大手時計メーカーへの経営資源の積極投入成果により香港支店及び子会社ベトナムでの大幅受注増加につながり184百万円の増加、メガネフレーム事業では本社既存メガネ部門での59百万円の減少、応用品事業では静電気除電器関係で3百万円の減少があり、これらにより前回予想を112百万円上回る見込みです。

営業利益は、売上高増加等により、前回予想を12百万円上回る見込みです。

経常利益は、営業利益の増加12百万円と、為替差益等による営業外収益の増加22百万円と支払利息の減少等による営業外費用の減少11百万円があり、これらにより前回予想を47百万円上回る見込みです。

当期純利益は、経常利益の増加47百万円と、退職給付引当金戻入による前期損益修正益11百万円等特別利益15百万円と、上記1に記載した減損損失83百万円等特別損失86百万円があり、これらにより前回予想を24百万円下回り6百万円の当期純損失となる見込みです。

(2) 通期(平成20年4月1日~平成21年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	5,346	232	187	181
今回修正(B)	5,346	232	187	109
増減額(B-A)	0	0	0	72
増減率(%)	0.0	0.0	0.0	39.5
(ご参考) 前期実績	3,980	176	190	735

(修正理由)

当期純利益は、第2四半期累計期間に発生した特別利益15百万円と特別損失86百万円により前回予想を72百万円下回る見込みです。

3. 平成21年3月期個別業績予想の修正等

(1) 第2四半期累計期間(平成20年4月1日~平成20年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	1,644	18	9	27
今回修正(B)	1,718	11	62	141
増減額(B-A)	73	30	53	169
増減率(%)	4.5	-	545.1	-
(ご参考) 前期第2四半期実績	1,310	98	65	211

(修正理由)

売上高は、時計バンド事業では、欧州大手高級時計メーカーへの2百万円の増加と国内大手時計メーカーへの経営資源の積極投入成果により香港支店での受注増加につながり135百万円の増加、メガネフレーム事業では、55百万円減少、応用品事業では、静電気除去器関係の減少により9百万円減少し、これらにより、前回予想を73百万円上回る見込みです。

営業利益は、原材料費等の値上がりによる仕入原価率の上昇もありますが、売上の増加と販売費及び一般管理費の減少40百万円等により、前回予想を30百万円上回る見込みです。

経常利益は、営業利益30百万円の増加と、為替差益6百万円及び金利スワップ評価益6百万円等営業外収益の増加15百万円と、支払利息等営業外費用の減少7百万円があり、前回予想を53百万円上回る見込みです。

当期純利益は、経常利益53百万円の増加と、特別利益としてベトナム子会社の業績向上により同子会社に対する貸倒引当金の繰戻し益43百万円の増加、特別損失として上記1に記載した特別損失(貸倒引当金繰入162千円、投資損失引当金繰入100百万円)等265百万円の計上により、前回予想を169百万円下回り141百万円の当期純損失となる見込みです。

(2) 通期(平成20年4月1日~平成21年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	3,407	21	37	141
今回修正(B)	3,407	21	37	81
増減額(B-A)	0	0	0	222
増減率(%)	0.0	-	0.0	-
(ご参考) 前期実績	2,893	154	90	617

(修正理由)

当期純利益は、第2四半期累計期間に増加した特別利益43百万円および特別損失265百万円により222百万円下回り81百万円の当期純損失となる見込みです。

(注) 上記予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上